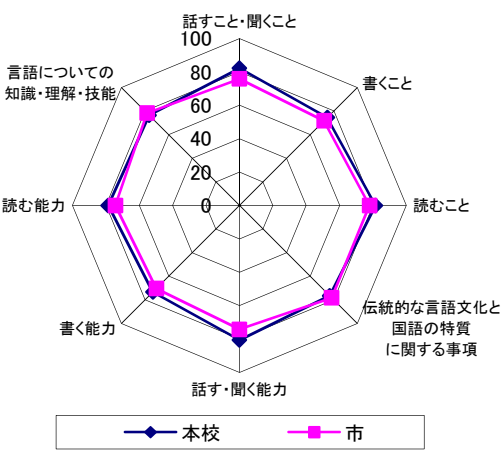


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.2	75.9	71.7
	書くこと	74.4	71.8	73.2
	読むこと	81.5	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.4	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	80.7	74.2	70.8
	書く能力	73.3	70.4	71.0
	読む能力	78.6	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	76.5	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

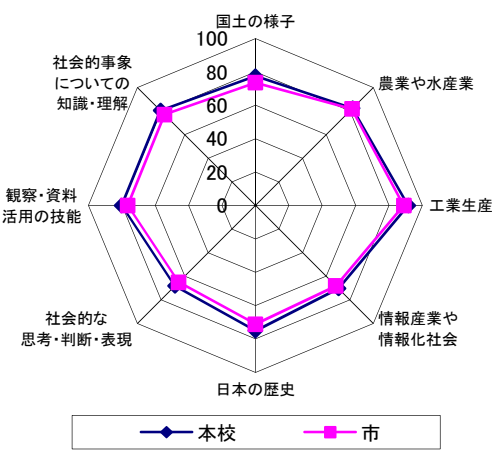
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より6.3%上回った。 ○話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞くことについての設問は正答率が99.1%と高い。	・本校の研究課題である「自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う」に沿って、話したり大切なことを落とさずに聞いたりする経験をさせる。
書くこと	市の平均正答率を2.6%上回っているが、他の領域よりも正答率は低い。 ●はじめて書くことをあきらめてしまい、無解答も見られた。 ○文章の内容や長さが決められている問題は正答率がやや高い。	・国語に限らず、通常の授業の中で、自分の意見を表現する機会を多く設けたり、条件に合わせて書く活動を意図的に仕組んだりする。 ・書くことに抵抗を感じないように、短く簡潔な文章を書く練習をしていく。
読むこと	市の平均正答率を3.5%上回った。 ○文章の内容を読み取ることについてはおおむね定着していると言える。 ●登場人物の心情を物語の中の描写から読み取る設問の正答率は54パーセントと市の平均を上回っているものの、低い結果となった。	・読む能力には個人差が見られ、その原因の一つとしては読書量の差が考えられる。朝の読書の時間や学校図書館を活用し、様々なジャンルの本にふれられるようにする。また物語においては、情景描写に注目させて登場人物の心情にせまるなどの活動を意図的に行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率よりも1.8%低い。 ●文の中の主語を問う設問では正答率が44.2%と半分以下となり、文章の基本的な構造について理解が不十分である。 ●敬語の使い方を問う設問については特に謙譲語についての理解が不十分である。 ○漢字の読みについてはおおむね定着している。	・漢字の読みはおおむね定着しているものの、書き取りは忘れがちで正答率が低かった。新出漢字の定着を図ると共に、文章の中で既習の漢字を活用していけるよう支援する必要がある。また、主語・述語などの基本的な文法については、今後の学習に大きくかわる部分であるので、確認を行う。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.5	73.6	76.2
	農業や水産業	82.3	81.9	77.5
	工業生産	91.6	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	70.4	68.2	61.0
	日本の歴史	75.1	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.2	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	80.2	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	80.4	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

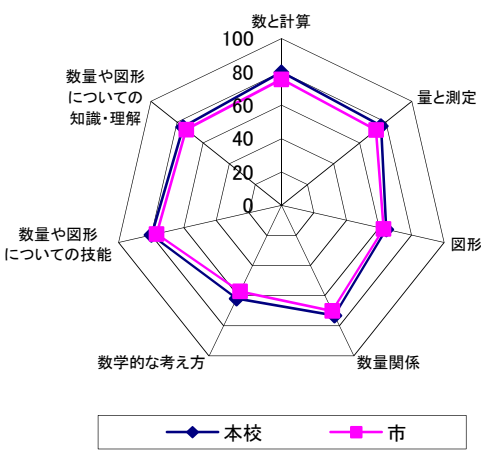
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均を3. 9%上回っている。 ○日本の地形の概要や周辺の海洋名、自然災害について、よく理解している。 ●公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さについての理解が不十分である。	・教科書や視聴覚教材により、日本の公害問題について復習し、健康や生活環境を守ることの大切さについて理解を深める。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○稲作に従事している人々の食の安全確保のための工夫、米の輸送や販売の費用などについてはよく理解している。 ●稲作に従事している人々の品種改良についての理解がやや不十分である。	・品種改良の意味、目的などを復習し、今、安全でおいしいお米が食べられるのも、品種改良も含め、稲作に従事している人々の努力や工夫があることを理解させる。
工業生産	平均正答率は、市の平均を2. 7%上回っている。 ○様々な工業製品がわたしたちの生活を支えていることをよく理解している。また、工業に従事している人々の環境保全への取組みに関する資料をよく読み取り、自分の考えをもつことができる。	・身近にある工業製品に目を向けさせながら、工業生産全般に関する知識を、さらに深めることができるようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均を2. 2%上回っている。 ○放送、新聞などの役割や責任の大きさ、情報ネットワークと国民生活の関わりについてよく理解している。	・身近にあるマスメディアの役割や上手な使い方、情報モラルを守っていくことの大切さについて引き続き理解させていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を4%上回っている。 ○どの時代においても、資料や年表の読み取りについてはよくできている。また各時代の人物のはたらきや文化についてよく理解している。 ●資料や年表を読み取り、考えられることについて答える問題の正答率が低い。また出来事や政策が与えた影響・結果についての理解が不十分である。	・資料や年表の見方や読み取り方を復習し、読み取ったことを自分の言葉で表現したり、友達と考えを交流したりする場を設定し、自分の考えを深められるようにする。 ・ノートに学習したことをまとめる際には、矢印などを使ってまとめるよう促し、出来事や政策の因果関係をおさえられるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.8	75.6	75.8
	量と測定	76.3	72.5	71.2
	図形	64.4	62.8	71.0
	数量関係	73.2	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	61.9	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	79.8	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	75.3	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

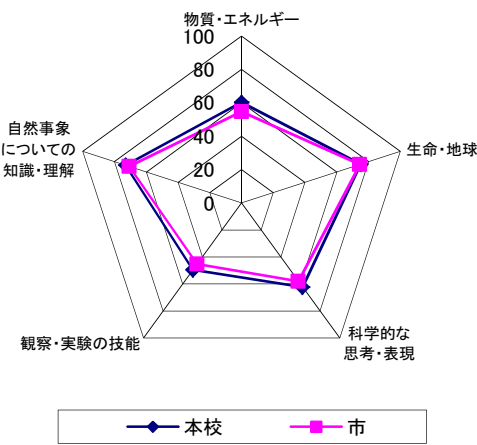
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を4.2%上回った。 ○整数×分数(約分1回)の計算については、95.6%の正答率であることから十分な習熟が見られる。 ●除数が1より小さい時に商が被除数より大きくなることの理解については、65.5%で、市の平均を2.6%下回っている。	・計算力はおおむね向上しているが、小数の計算において小数点の位置を誤ってしまうことが多く見られるので、計算問題に多く取り組ませることで更に正確さを求めていく。 ・文章題の練習問題も取り入れ、正しく読み取る力を身に付けさせるようにしたり、「順序良く考える力」を養ったりすることで、学習内容の習熟を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を3.8%上回った。 ○円柱の体積を求める式を選ぶ問いについては、99.1%の正答率であった。 ●速さと時間から道のりを求める(単位換算あり)問いでは、市の平均を2.7%上回っているものの、正答率が45.1%と低い傾向を示している。	・「速さ」の学習をする際には、「単位量当たり」の問題と深く関わってくるのでその復習と、数直線や図などを用いて自分で説明する活動を増やししながら意味を捉えさせていくことで、定着を図っていく。また、文章問題で何を問われているかを正確に捉えられるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を1.6%上回った。 ○点対称な図形を選ぶ問いの平均正答率は、市の平均を3.9%上回っている。 ●図に示された七角形の内角の和を求める式を選ぶ問いでは、市の平均を1.1%下回っている。	・「多角形の面積」を求めるための考え方について学習する際に、既習事項をもとによりよい方法で求めていくように指導する。その際、具体的な例を示し、それぞれについての問題を解きながら指導する。
数量関係	平均正答率は市の平均を3.1%上回った。 ○比例の関係をXとYを使って式に表す問いでは、92%の正答率であることから十分な習熟が見られる。 ●比の値を使って必要な材料の量を求める方法を説明する問いでは市の平均を3.7%上回っているが正答率が39.4%と低い傾向を示している。	・比を求める学習の際には、具体物を用いて整理する活動を多く取り入れ、正確に理解できるよう指導する。また、実生活に結びつけた問題を解くことで比の値を定着させ、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.2	54.6	57.5
	生命・地球	75.1	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	62.3	58.0	59.6
	観察・実験の技能	49.6	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	73.0	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を5.6%上回っている。 ○「メダカの成長」「ふりこのきまり」「物の燃え方」の正答率が高く、示された実験や観察結果をもとに、よく考察をすることができている。 ●「水よう液の性質」では、水溶液の水を蒸発させた時の様子から、溶けているものを判断することや、固体が溶けた水溶液を判断することなどの理解が少し不十分である。	・教科書や視聴覚教材を使い、水溶液の性質について復習し、身近にある水溶液の性質について理解を深めさせる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を0.6%上回っている。 ○「生物とかんきょう」「月と太陽」に関する正答率が高く、自然事象についてよく理解している。 ●「植物のつくりとはたらき」やじん臓の役割についての理解が十分ではなかった。	・光合成については、実験方法や結果、考察についてもう一度確認して、理解を深めることができるようにする。 ・ヒトの体の仕組みや働きについて、教科書や視聴覚教材を使って復習し、特に、じん臓や肝臓の働きについて、理解できるようにする。